

# 伝えたい、伝統芸能の心

高森町伝統芸能連絡協議会会長 本田 研一

甲斐姓をもつ人達が多い、高森町。野尻川上神社へいつごろ奉納されたのか、甲斐姓を説く証ともいえる、菊池家（菊池一族）の所有であった「槍」が奉納されております。今思うに、きっとそれは菊池一族の持ち物であるとする時代が過ぎ、



▲甲斐家一族の系譜（尾下・牧戸）

お宮へ奉納されることが尊いとした時代が、やって来た証でしょう。祭りでの宝物紹介の折に、見聞するにいたりました。どうして菊池家の槍が、奉納されているのでしょうか。甲斐姓は、野尻・草部そして周辺では馬見原から高千穂に多くあります。本来その姓は、御船周辺から興り、本町の東端まで至ります。そもそも甲斐姓は、甲斐の国（現在の山梨県）にその源を發し、甲斐の国からの帰還者達によって名乗られました。甲斐の国から帰って来た人達とは、一体どんな人達だったのでしょう。菊池家の滅亡は、一族の内紛にありました。兄弟仲が悪く、時の足利政権によって、菊池家を治めるもの達と、甲斐の国へ逃れた人達に分か

れました。

内紛が続き、やがて菊池家は滅びます。そのお家再興を願い、甲斐の国へ逃れた人達が帰ります。しかし時すでに遅く、再興ならずして、その一族は分散します。

御船より高千穂そして高森町へと逃れた一族は、お家再興と一族の証として「甲斐姓」を名乗ります。

九州の代表的な武将であった菊池一族。連綿として受け継がれる継承のなかで、甲斐姓をもつ人達が、最も有力な後継者でありましょう。

甲斐姓をもつ人物として、本町では忘れがたき人がいます。甲斐有雄翁です。彼は、尾下がまだ行政上「村」であった時代に生まれます。

石工を生業として、尾下小学校世話人や野尻村村会議員などをつとめました。そのかたわら、総数二千基におよぶ「道しるべ」を建立し、広く阿蘇郡内はもとより、大津町にも残っています。今は路傍の片隅にある石碑は、厳しき自然のなかに、筆使いの

優しさがあふれ、当時の旅人達を救ったことでしょう。

甲斐有雄翁の「道しるべ」紀行は、彼自身が従軍した西南戦争により得たものが大きかったと思われれます。明治十年、彼自身が荷物の運搬等に従事する軍夫として従軍した西南戦争について、あまりにも多くを残しています。

熊本そして鹿児島と、当時としては最も近代的な都市間を従軍した翁は、筆まめであり、民間人としてはじつに多くの日記等を残しました。西南戦争を民衆の視点で捉え、従軍体験から鹿児島での出会いをスケッチも交え残されています。

当時としては数少ない人達の体験でしかない西南戦争。従軍しその体験を民衆の視点で記録したものとしては、非常に興味深い資料として、現在は県松橋収蔵庫に保管されています。県民共有の文化遺産として、その功績は残ってゆくことでしょう。